

PHOTO PALETTE



10月6日、長柄幼稚園で稲刈りが行われました。晴天に恵まれたこの日、年長の子どもたち34人は、初めて稲刈りがまを手に持ち、夢中で稲を刈っていました。刈り取ったお米は、カレーパーティーでみんなで食べます。稲刈り体験をした小林航琉くん(水立大黒・23区)は、「初めて稲刈りをして、とても楽しかったので、小学生になってもやりたいです。お米は大切に食べたいです」と話してくれました。



ちよつと話しかけないで！
わたし今、稲刈りに夢中なの

雨の中でも元気に競技！



10月9日、町内の各保育園で運動会が行われました。この日は、あいにくの雨でプログラムのほとんどが中止となってしまいましたが、それでも子どもたちは、お父さん、お母さんの応援を受けながら、降りしきる雨の中、この日のために練習してきた成果を十分に発揮していました。

いつも元気で100歳に



10月5日、森イトさん(古家十軒・30区)が100歳を迎えました。森さんは、「若いころは、畑仕事など農業をやりながら子どもたちを育てました。健康の秘けつは、好き嫌いをせずに何でも食べること。腹八分目を心掛けています。毎日の食事に牛乳も飲んでいるんですよ」と話してくれました。

心に残る作品が勢ぞろい



10月15～17日、邑楽町公民館で第12回邑楽町総合写真展が行われ、風景写真など個性豊かな作品75点が展示されました。実行委員会代表の根岸定男さん(秋妻・17区)は、「今年も素晴らしい作品が勢ぞろい。写真展を開催できるのもスタッフの協力のおかげです」と話していました。

町の歴史 連載三百四十八回

細谷清吉(歴史研究家)

伊賀局は邑楽町篠塚字馬場にあった篠塚城五代城主篠塚伊賀守重広のむすめとも妹ともいわれます。重広は新田義貞が討幕の兵を挙げた元弘三年(一一三三)五月八日には、生品明神に馳せ参じました。時に二十四歳でした。

吉野拾遺は、延元元年(一一三六)から正平十三年(一一三八)までの吉野朝(南朝)に関する事跡や逸話を集めた書で、原本は二巻から成り、その上巻に伊賀局のことが

述べています。

その書き出しに「新待賢門院に伊賀のつぼねといふありけり。これは左中将義貞朝臣のさぶらひ篠塚伊賀守といへるがむすめにならあり」とあり、新田義貞四天王、新田十六騎の筆頭で豪勇を天下にうたわれた篠塚伊賀守重広のむすめとなっています。茨城県若井市(現坂東市)幸田の篠塚五郎右衛門家の篠塚家系図には、伊賀守重広の妹が伊賀局で、楠木正儀の妻となっています。

群書類従本吉野拾遺の伊賀局逸話の終わりには、「今は左馬頭正のり(楠木正儀)の妻にならしたまひし」とあります。文中の今とあるのは、正平十三年(一一三八)で、楠木正儀は楠木正成の子で、正行の弟

です。

星野家譜には「篠塚伊賀守重広一鬼入道ノ妹ニテ伊賀局ニ義貞ノ胤トテ宿リタル採ノ姫ヤ重広ノ末子ナリケル房五郎重運等ノ人々ハ、妙見城(福岡県八女郡星野にあり)ノ御味方奉じ、忠勤ヲミタキ由ヲ申入レ」とあります。伊賀局は伊賀守の妹で、新田義貞との間に採といふむすめがいたことになっています。

伊賀局は長じて後醍醐天皇の准后藤子(新待賢門院と呼び、後村上天皇の御母)に宮仕えし、後に楠木正儀の妻となりました。和歌に優れ、強力で胆力ある女性として語り伝えられています。

吉野拾遺に、正平二年(一一三七)春のころ、ばけものがあると、人々がさわぎおそれた夜、伊賀局はただ一人庭に出て、「すしさを松吹風に忘られて袂にやとす夜半の月かけ」と詠じた歌が出ています。



伊賀局の挿絵